



# 南房総のハズシ

## どの子ども「わかる」「できる」をめざす授業づくりや学級づくり ～ユニバーサルデザインの考え方に学ぶ～

「障害者差別解消法」の施行が平成28年4月1日に迫り、インクルーシブ教育システムの構築に向け、障害のある子どもたちもいない子どもたちも共に学ぶ環境づくりが求められています。

本号では、千葉県総合教育センターの「ユニバーサルデザインの考え方に学ぶ どの子ども『わかる』『できる』をめざす支援の工夫」を紹介します。

### I はじめに

文部科学省が平成24年に実施した調査の結果では、通常の学級において、知的発達に遅れはないものの、学習面又は行動面で著しい困難を示すとされた子どもが、6.5%程度いることが明らかになっています。それ以外でも、なんらかの困難さがあり、教育的支援を必要としている子どもたちがいます。

こうした子どもたちに必要な支援の多くは、工夫により他の子どもたちにとっても、より「わかる」「できる」を促すことになり、使える、あると便利な支援となるのではないのでしょうか。

そこで、「誰もが使えて誰もが便利」というユニバーサルデザインの考え方を取り入れた授業づくりや学級づくりを紹介します。

### II ユニバーサルデザインの視点をふまえた授業づくりや学級づくり

#### (1)理解を促す（情報提示の視点）

##### 学級の様子

- ・説明だけでは、十分理解できないことが全体的に見られる。
- ・授業中に集中できない子どもが多くいる。

##### ◎関心をもたせる教材の工夫

- \*学習問題は子どもの身近なものを題材にする
- \*操作的活動を取り入れ、集中させたり、思考力を深めたりする

##### 支援の工夫例

- 学習課題に焦点をあてた教材の工夫や課題提示の工夫などで、学習課題を把握しやすくする。
- 既習事項やポイント等、考え方のヒントを示すなど、課題解決に取り組みやすくする。



「同じ長さの辺が同じ色のストローだから調べやすい!」  
「透明シートの台紙だから、回転したり裏返したりして、いろいろと調べられるよ」

